

450年の伝統を誇る日本一の野外歌舞伎舞踊

# 山あげ祭







7



4



1



8



5



2

①元田町の会所開き／②当番町の元田町若衆によって八雲神社から出御のみこしが担ぎ出される／③泉町訪問であいさつを交わす世話人たち／④日本一の絢爛豪華な野外歌舞伎舞踊／⑤ライトアップされた山の前で演じられた「三番叟」／⑥大勢の観客で会場が埋めつくされた特別公演／⑦さっそうと歩く世話人たち／⑧若衆の躍動する動きに興味津々の園児たち。



6



3

山あげ祭(烏山の山あげ行事)として国の重要無形民俗文化財に指定)が、7月24日(金)から26日(日)までの3日間、烏山地区の市街地で開かれました。今年の当番町である元田町では、若衆が中心となり準備を進め、祭本番を迎えました。期間中には、県内外から8万2千人が来場。大勢の観光客が450余年の歴史を持つ絢爛豪華な野外歌舞伎舞踊を楽しみました。また、現在、ユネスコ無形文化遺産に、全国にある33の国指定重要無形民俗文化財である祭祀行事と一括されて「山・鉾・屋台行事」という名称で申請中の「烏山の山あげ行事」。平成28年11月の政府間委員会における審査を経て、ユネスコ無形文化遺産の代表一覧表に記載される予定となっています。期間中には登録に向け、祭を盛り上げようと様々な催しが行われました。

### 450余年の歴史受け継がれる 絢爛豪華な野外歌舞伎舞踊

山あげ祭は、今から450年ほど前の永禄3年(1560)、烏山地方に疫病が流行し、この災厄を避けるため、時の烏山城主那須資胤が、大桶村から牛頭天王を烏山(酒主村)の中心部に勧請したのが発祥とされています。

当初は、相撲や神楽獅子などを奉納していましたが、次第に大規模になり、延宝元年(1673)には屋台ができ、後には、よりか山を背景に狂言を行うようになりました。さらに、江戸末期から明治にかけては、江戸で常磐津所作が流行したのをきっかけに、常磐津所作の「山あげ」が行われるようになり、現在のような全国でも珍しい絢爛豪華な野外歌舞伎舞踊となりました。

今年も、天候にも恵まれた3日間となりました。舞台では、山あげ保存会芸

能部会の常磐津部の伴奏で踊り部の皆さんが、今年の主芸題「将門」を中心に、「三番叟」や「蛇姫様」、そして、市制10周年記念として初披露となる「乗合船」など、17公演が行われました。

今回は、活動を休止していた仲町若衆が、地域住民に協力を得ながら3年ぶりに活動を再開。当番町元田町による訪問はありませんでしたが、無事にみこしの渡御が行われました。

### 前夜祭の笠蒔「三番叟」と「将門」を披露

前夜祭の23日(木)には、午後4時から元田町で会所開きが行われ、川勾勇二自治会長、松本和明筆頭世話人があいさつした後、木頭や副木頭、大山主任など各担当の若衆が紹介されました。その後、金棒引きと呼ばれる5人の子どもたちを先頭に、世話人や若衆たちが、屋台を引いて元田町内を練り歩きました。



た。沿道には、お囃子の音色を聞きつけた多くの地域住民が集まり、若衆たちを激励しました。

途中、突然の雨に見舞われ、少し遅れたものの、午後7時頃から宵祭といわれる「笠揃」の行事が無事に行われました。舞台上では、川勾自治会長や大谷範雄市長、山あげ保存会の島崎利雄会長、三森文徳栃木県議員等があいさつ。その後、ライトアップされた山の前で「三番叟」と「将門」が演じられました。

**「出御」が始まる**

24日(金)、いよいよ山あげ祭の本番。午前6時から当番町の元田町若衆によって八雲神社からみこしが担ぎ出され、元田町内を一周し、仲町十文字の御仮殿にみこしを奉納する「出御」が行われました。

その後、御仮殿前で山をあげ奉納する「天王建」が行われました。この天王建とは、祭の中でも最も重要な儀式とも言われ、多くの人でにぎわいました。

続いては、当番町以外の町で山をあげる「訪問」が行われました。当日は、鍛冶町、金井町の順に訪問し、「将門」を公演。金井町では、突然の雨に傘を差しながらも多くの人が舞台を楽しみました。

**2日目は特別公演にぎわう**

25日(土)、午前6時から再来年の当番町の仲町若衆によって御仮殿からみこしが担ぎ出され、各町を巡回する「渡





①赤面の天狗と青面のからす天狗が露払いしながら練り歩く仲町による「渡御」  
 ②大屋台を引くお手伝い③一息入れる若衆④見事な演技を演じきる踊り子たち  
 ⑤市制10周年記念として初披露された「乗合船」⑥祭を盛り上げるお囃子  
 ⑦子どもみこしの出発を待つ子どもたち⑧祭を見守る地域住民⑨迫力ある大屋台  
 ⑩突然の雨に傘を差しながら見物する人々⑪全長約100メートルの舞台の裏側  
 ⑫分解した山などを数百メートル先の公演場所へ駆け足で運ぶ手持ち移動  
 ⑬最終公演「関の扉」⑭5人の金棒引きが大屋台を引き連れる  
 ⑮千秋楽で披露された「老松」⑯観光客が日野町の大屋台を引く  
 ⑰深夜まで続けられた金井町による「還御」⑱子どもみこしなどが練り出す。

### 3日間の祭に幕

最終日の26日(日)、この日は5公演。正午からの特別公演では、「乗合船」が披露され、山あげ会館前へ多くの人が足を運びました。

午後5時になると、御仮殿のみこしを八雲神社に戻す「還御」の始まり。みこしは、来年の当番町である金井町の若衆に担がれ、同時に、旧烏山町内の子どもみこしなどが練り出し、浴道からたくさんさんの声援が送られました。

時を同じくして、八雲神社の前では、各町のお囃子が競い合う「ブンヌキ」が行われ、若衆たちが自町の囃子方を応援し、活気と熱気に溢れました。

そして、午後10時、今年最後の山あげ

「御」が行われました。赤面の天狗と青面のからす天狗が露払いしながら練り歩き、正午までに再びみこしが御仮殿に納められました。

一方で、元田町若衆は、泉町、日野町を訪問したほか、山あげ会館前での特別公演、地元元田町での公演が行われました。特に、「蛇姫様」と「将門」が披露された特別公演では、炎天下にも関わらず、会場を埋めつくすほど大勢の観客が訪れ、踊り手の華麗な舞いに歓声が上がっていました。また、元田町内で連続して行われた公演では、若衆が分解した山などを手持ちで数百メートル先の公演場所へ駆け足で運ぶ珍しい移動が行われました。



- ①各町のお囃子が競い合う「ブンヌキ」／
- ②木頭の合図で一子乱れぬ動きをみせる若衆／
- ③大山をあげる／
- ④舞台と館をつなぐ橋を支える／
- ⑤舞台装置を乗せた地車を引く／
- ⑥笠拔で手締めをする木頭と副木頭／
- ⑦元田町若衆と祭関係者が集まり記念撮影。



「笠拔かさひら」が行われました。演目は、「関せきの扉」。最後の公演ということもあり、夜遅くにも関わらず多くの観光客でにぎわいました。また、公演を終えた舞台上は、大谷範雄市長の「千秋楽の御ご口上」に続き、踊りを指導する西川扇士浪さんが「老松おきなまつ」を披露し、全公演を無事に終えました。

夕方から続く還御のみこしは、金井町若衆が八雲通りを何度も練り歩き、午前1時20分に八雲神社にお宮入り。深夜まで会場に残っていた観客からは大きな拍手が沸き起こり、今年の祭の幕が下ろされました。

### 祭を支える若衆

山あげ祭と言えば舞台で演じられる野外歌舞伎舞踊が有名ですが、もう一つの魅力が、約100人の若衆の一条乱れぬ団休行動です。華やかな舞台の裏では、若衆が山をあげたり、舞台装置を木頭の合図で動かしたりと、若衆の機敏な動きで祭は支えられています。また、公演場所への移動には、人力で動かす「地車じぐるま」を使います。若衆たちが舞台や道具を運ぶ姿は迫力満点。多くの観光客の目を釘付けにしました。

この若衆の世話役を務めた元田町の松本和明筆頭世話人は、「すべての公演で山をあげることが出来たのは、みなさんのおかげ。大成功に終わり感謝しています」と祭を振り返りました。

# 山あげ祭 トピックス

## 嵐山睦会万灯みこし 祭盛り上げる

嵐山睦会(大金康男会長)の万灯みこしが、24日(金)の夜、八雲通りにある嵐山睦会所から山あげ会館まで練り歩きました。

約100個の提灯が飾られたみこしは、1トンを超す重さ。近隣にはない珍しさで、当日も県内外から多くの担ぎ手が集結しました。みこしは、1時間半にわたって担がれ、祭を盛り上げました。



山あげ会館に向かって担がれた万灯みこし。

## 山あげ会館前広場 ステージに7組出演

7月25日(土)と26日(日)、山あげ会館前広場では、ステージイベントが行われました。

7組の個人・団体により歌謡ショーや日本舞踊、ダンスなどが披露され、訪れた人たちを楽しませました。また、広場内では、ふるさと物産店が開かれ、かき氷や焼きそば、お土産品などが販売され、多くの人でにぎわいました。



盛り上がりを見せるパフォーマンス。

## 鳥山駅～山あげ会館 人力車が快走

西川会(西川扇土浪代表)では、25日(土)と26日(日)の2日間、JR鳥山駅から山あげ会館まで「人力車」を運行させました。

これは、同会が山あげ祭をさらに盛り上げようと、浅草から人力

車1台を呼び、走らせたものです。多くの来場者が利用し、市街地の風を切って走る人力車は好評を博しました。



観光客を乗せて走る人力車。

## JR鳥山駅前 観光客を歓迎

市議会のJR鳥山線利用促進対策特別委員会では、JR鳥山線を利用して山あげ祭に訪れた観光客を歓迎しようと、25日(土)、JR鳥山駅前



駅前で歓迎する議員たち。

出迎えをしました。

当日は議員が、山あげ祭のパンフレットや市制10周年記念うちわなどを配布。また、やまどもも駆けつけ、一緒に歓迎をしたり写真撮影に応じたりするなど利用者を楽しませました。

## 山あげ祭に向け 市街地をきれいに!



山あげ会館前を清掃する参加者たち。

山あげ祭に訪れる観光客が快適に過ごせるように、「おもてなしの心で迎えよう」と、7月21日(火)、今年で3回目となる「山あげ祭応援クリーン作戦」が行われました。

これは県鳥山土木事務所と市、県建設業協会鳥山支部が共催で実施している地域貢献活動の一環で、当日は、約120人が参加。強い日差しの中、山あげ会館前で出発式を行ったあと、祭で屋台が練り歩く道路の空き缶・ゴミ拾いや歩

道の除草などを約2時間かけて行い、山あげ祭開催に向けた鳥山市街地の道路の美化に努めました。

## 浴衣姿の若手職員 PR活動で魅力発信

山あげ祭開催に向け、営業戦略推進部隊「魅力発信班」が7月9日(木)から11日(土)にかけて、JR那須塩原駅とJR宇都宮駅で山あげ祭のPR活動を行いました。

PR活動には、法被姿の大谷範雄市長や浴衣姿の若手職員、やまどんが通勤・通学者などに山あげ祭のパンフレットや市制10周年記念うちわなど約2千枚を配布しました。



浴衣姿でパンフレットなどを配る魅力発信班。





# い かんべ祭

8/22(土)・23(日)  
第38回

## ステージ出演団体(順不同・敬称略)

Cowbell/HAP'S & A.MB/Tha Market's/石の蔵  
ジャズ市民交流会/なないろmelody/もうもうヒデ  
やん/グループ系アイドルトニック/柳扇会/  
BEAT CRASH/鳥山太郎/フラダンス フラレア/  
君島怜奈/オカリナサークル あんだんて/Rough  
Diamond/あざらし&麻耶/千珠会/アイレ・ベラー  
ノ/チャリンコ戦隊 姫レンジャー/坂東会/すみれ  
クラブ/オーティム6/紗喜千代会/千草会/アイ  
レ・ベラーノ/神長乙女会/ALLEST/LOOP  
CHILD/南那須踊り会/江川小金管バンド/鳥山小  
プラスバンド/荒川小吹奏楽部/鳥山中吹奏楽部/南  
那須中吹奏楽部/精霊法士 トチノキッド/吉田人也  
/絆翔~HY~/Lovely Candy/ローキーズ ミヤ  
コ/雷神 ライサマー/高根沢フラメンコサークル/  
プアリコ・フラ・サークル/矢崎部品民俗舞踊/ナー  
レイ・ホオヘノ/飛晴/SWINGING HERD/藤井ゆ  
みこ/嵐山陸/宇都宮アート&スポーツ専門学校/手  
裏剣戦隊ニンニンジャー

※出演団体は変更になる可能性あり(7月17日時点)。

第38回「いかんべ祭」が、8月22(土)・23(日)の2日間、保健福祉センター駐車場で開かれます。

祭を支える実行委員や多くのボランティアにより直前まで準備が続けられます。実行委員では、祭の準備や当日の運営に協力してくれるボランティアを随時募集しています。一緒に、いかんべ祭を盛り上げたい参加者はご連絡ください。

■商工観光課(いかんべ祭実行委員会事務局)

☎0287-83-1115



祭の主な日程は以下のとおりです。

◎22日 前夜祭 午後5時~10時

・ステージイベント(各種団体等)

◎23日 本祭 午後3時~9時30分

・ステージイベント(江川小金管バンド・鳥山小プラスバンド・荒川小吹奏楽部・鳥山中吹奏楽部・南那須中吹奏楽部・手裏剣戦隊ニンニンジャー・各種団体等)・パレード・花火大会(午後9時~)

※荒天により本祭中止の場合は、花火大会のみ24日(月)午後8時から実施。

## 南那須地区広域行政事務組合 消防救助技術大会で関東・全国へ

南那須地区広域行政事務組合消防本部(西宮一美消防長)では、6月24日(水)、栃木県消防学校で開かれた、第41回「栃木県消防救助技術大会」に出場し、ロープ応用登はん部門で優勝、ロープブリッジ救出部門で準優勝に輝きました。

7月17日(金)に埼玉県で開かれた関東大会に出場し、入賞。ロープ応用登はんは、8月29日(土)に兵庫県で開かれる全国大会に出場します。

全国大会に向けて、小池大さんは、「日頃の練習の成果を十分に発揮し、地域住民やいつも応援してくれる人に恩返しをした」と話していました。

この大会は、複雑多様化する災害において、救助技術の向上と各市町間の防災連携意識を高めるために毎年開かれているものです。当日は、はしご登はんや、ほふく救出など6つの競技に出場し、日頃の訓練の成果を発揮しました。

また、ロープブリッジ救出は、

■出場選手：【ロープブリッジ救出】平野悦之(野上、大谷達朗)上境、小林巨徳(那珂川町)、柳田雄平(宇井) 【ロープ応用登はん】小池大(八ヶ代)、鈴木智史(志鳥)



上：ロープブリッジ救出/下：ロープ応用登はんともに訓練の様子。

## 那須烏山市・那珂川町の合同訓練

### 南那須地区総合水防訓練



土のう作りをする消防団員たち。

那須烏山市と那珂川町では、7月5日(日)、市消防団による夏季点検の開催に合わせて、台風の集中豪雨により河川が氾濫したことを想定し、南那須地区総合水防訓練を開催しました。

両市町合同での訓練は、今年で2回目。市消防団や女性消防団、那珂川町からは2分団部の消防団員が参加し、約800人で非常時に

備え、訓練にあたりました。

団員たちは、広域消防署員や栃木県烏山土木事務所の指導のもと、倒木による木の除去のためのチェーンソー操作やロープ結索、土のう作りを行いました。そのほか、女性消防団による救護所や社会福祉協議会によるボランティアセンターの開設、大桶上自主防災会による炊き出し訓練も行われました。

## 市消防団の夏季点検

市消防団(興野一美団長)による夏季点検が、7月5日(日)、大桶運動公園で開かれ、正副団長4人のほか、8分団39部から452人、女性消防団2部から12人、2中学校の少年消防隊から52人が参加しました。この点検は、非常時に備え、いつでも出動できる万全の態勢を整えるため、毎年、台風などの自然災害が多発する前に開かれています。

当日は、服装や機械器具の点検などを行い、防災意識と団員の士気高揚を図りました。



機械器具を点検。

## B&G海洋性スポーツ普及大会 カヌー試乗会とクリーン作戦を決行

B & G南那須海洋クラブ(黒須清会長)では、7月20日(日)、海洋性スポーツ普及大会「カヌー試乗会」を荒川河川敷で開催し、親子連れ18人が参加しました。

これは、海洋性レクリエーションの普及と海や水辺の環境を守るための「クリーンキャンペーン」と合わせて、毎年「海の日」に約150ヶ所で開催されています。

ライフジャケットを装着した参加者は、インストラクターにパドルの使い方やカヌーの乗り方を教わると、いよいよ川へ。最初はパドルを漕ぐのがぎこちなかった参加者たちでしたが、終る頃にはコツをつかんだようでスムーズに乗れるようになっていました。

また、最後には、全員で河川敷周辺のゴミ拾いも行われました。

烏山小6年の高沼莉奈さんは、「カヌーを操作するのが意外と難しかった。また挑戦したい」と話していました。



カヌーに試乗する子どもたち。

## 災害ボランティアチーム龍JIN 小中高生36人が被災地へ



現地の人々との交流。

6月27日(日)、那須烏山市災害ボランティアチーム龍JIN(小堀恵美子代表)では、市内の小中高生36人と東日本大震災で被災した石巻市を訪れ、

現地の地域住民と交流を深めました。

当日は、10人以上の被災者に震災当日から今日までの被災体験を聞いたほか、門脇地区で行われていた被災者への応援メッセージプレート作りにより全員で取り組みました。また、一行は、牡鹿半島の萩浜にも立ち寄り、仮設住宅に住む人々とも交流しました。

烏山高校3年の佐藤怜奈さん(旭1丁目)は、「このボランティアに参加して3回目ですが、復興していく様子が行くたびに分かった。テレビや新聞では感じることでできない悲惨さを知ることができて良い経験になった」と話していました。